



1 学年通信

五所川原高校
令和6年3月号

次年度の「顔写真撮影」で感じた成長

先日実施した来年度の顔写真撮影では、2学年用の青と白の校章を身につけて撮影に向かう皆さんの姿が印象的でした。ついこの間、初々しい姿で入学して来た人とは思えない堂々とした態度が1年間の成長を物語っているようでした。文化祭やスポーツフェスティバルなどの行事、部活動、総探やHR活動、そして日々の何気ない授業の一コマ一コマが積み重なって今の姿があるのだと思います。進級おめでとう!!

自分の変化を言語化してみよう。

この一年間、学校生活だけではなくプライベートも含め様々な経験から多くのことを学んだと思います。学ぶことで考え方が変化し、考え方が変化することで行動が変わってくる。このことを「行動変容」といいます。皆さんは自分自身の行動変容に気づいていますか。昨年の今頃、中学校を卒業したばかりの頃の自分と今の自分では何がどのように変化していますか。考え方や行動に変化はありましたか。思い返し、書き出してみてください。知っている人もいるかと思いますが、自分を客観的に見ることを「メタ認知」といいます。この力を高めることで行動変容が促進され、大きな成長につながります。

次の一年間でどのような変化を見せてくれるのか。とても楽しみです。

ちょっとした隙間を見つけては考えること(やること)

いわゆる「スキマ時間」に何をしていますかということなのですが。朝の身支度の際のスキマ、通学中のスキマ、学校に着いてから授業が始まるまでのスキマ、部活が始まる前のスキマ、帰宅途中のスキマ等々、平日にも色々なスキマ(5~10分)がありそうです。また休日には休日のスキマがあると思います。皆さんは自分の生活の中のスキマを何に使っていますか。このちょっとしたスキマをどのように使うのかは案外その人の個性を形作っているのではないかと思います。自己紹介の時に「自分は今〇〇にハマっていて…」といった話をされる方も多いと思いますが、その人のスキマ時間はおそらく自己紹介の時の「〇〇」で占められていると思うのです。さて、このスキマなのですが、基本的には自分の人生を豊かにするために使うべきだと私は考えています。皆さんが自分のスキマを何に使うのかは絶対的に自由です。ただ、そのことは保障しつつも、高校2年生を迎える皆さんに少しでも提案はしたいと思っています。

スキマ時間は自分への投資の時間

「あの人は〇〇が凄く上手いよね。」「あなたは〇〇についてホント詳しいよね。」と誰かを賞賛したことはありますか。逆に誰かに賞賛されたことはありますか。賞賛されたことのある人は既に経験済みだとは思いますが、賞賛されるような部分を持っている人はほぼ例外なくスキマ時間に〇〇の事を考えたり実践したりしています。このことが何を指すのかというと「スキマを上手く使えば、あなたは今からでも〇〇に長けた人になれますよ。」ということです。もし今、超短期的な満足感のためだけにスキマ時間を使っているのであれば「その使い方を一度見直してみませんか。」と私は提案します。自分の将来に対して必要なことを冷静に「メタ認知」できたら、そこにスキマ時間を投資して欲しいと思っています。

自分で自分を新しい道へ導いてください。

「認知能力」と「非認知能力」

「認知能力」と「非認知能力」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。簡単にいうと「認識しやすい能力」と「認識しにくい能力」ということになります。各教科で学ぶ知識や技能（学力試験で問われるような内容）が「認知能力」であり、これまでの試験では見取りにくい「やりぬく力」「忍耐力」「向上心」「勤労意欲」「協調性」など（学習指導要領では「学びに向かう力・人間性等」として括られている）が「非認知能力」とされます。ちょっと堅苦しい話になりましたが、大学進学に向けて選抜方式（「総合型・学校推薦型」及び「一般選抜」）の違いやその目的を理解するために必要な予備知識として覚えておいてください。

「勉強だけで世の中に出たら通用しないよ」というフレーズ

このフレーズには異なった二つの意味があります。もしかすると聞く人によって異なる意味に聞こえてくるのかもしれませんが、勉強（知識や技能を習得すること）から逃げたい人には「勉強したって世の中に出てから大して使うものでもないし別にやらなくてもいいんじゃないの。他にもっとやることがあるでしょ。」と聞こえるようです。勉強の大切さを理解している人には「勉強してテストの点数を取る力があるのはいいけれど、それだけでは社会人として足りないものがあるよ。」と聞こえてくるはずです。このテストの点数の他に社会人として必要なものの正体が「非認知能力」ということになります。

「非認知能力」の育成が大学進学につながる時代

「非認知能力」は社会に出てから必要な力であると同時に、自分の人生を自分で切り開いていくためには必要不可欠な能力です。しかし、見取りが難しいため、これまで各大学では「認知能力」を主に見取る「一般選抜」で多くの学生を選抜していました。ただ、ここ最近は「総合型選抜」で「非認知能力」も見取って学生を選抜する大学が増えてきています。最新のデータでは、私立大学も含めると「総合型選抜」で選抜する学生の数が全体の50%を超えています。この傾向は皆さんが受験する時も同様です。HR活動や総探を中心に多くの人と意見を交わしたり、各行事や部活動で頑張ることによって身につける力は大学入試にも生きてきます。

（図は A.kasai 作成のファイルから抜粋）

カリキュラム・マネジメントで培う認知・非認知能力と選抜形式との関係性

